

次の古文を読んで問いに答えよ。

暗うなりぬれば、格子下ろさ^アせて、灯台に火ともさせて、いかで縫ひいでむと思うほどに、北の方、縫ふやと見に、みそかに^Ａいましにけり。見給へば、縫ひ物はうち散らして、火はともして人もなし。入り臥しにけりと思ふに、大きに腹立ちて、「おとどこそ。この落窪の君、^①心の愛敬なく見わづらひぬれば、これいましてのたまへ。かくばかり急ぐ物を、^②いづこなりし几帳にかあらむ、え知らぬ物設けて、つい立てて、入り臥し入り臥しすることよ。」とのたまへば、おとどは、「近くおはして^Ｂのたまへ。」と^Ｃのたまへば、いらへ遠くなりぬれば、^③果ての言葉聞こえず。少将、落窪の君とは聞かざりければ、「何の名ぞ、落窪は。」と言へば、女いみじく恥づかしくて、「いさ。」といらふ。「人の名にいかにつけたるぞ。論なう屈したる人の名^イならむ。きらきらしからぬ人の名なり。北の方さいなみだちにたり。さがなくぞ^Ｄおはす^ウべき。」と言い臥し給ひけり。

上の衣裁ちておこせたり。また遅くもぞ縫ふとおぼして、よろづのことおとどに^Ｅ聞こえて、「行きてのたまへ、のたまへ。」と責め^エられて、おとどおはして、遣り戸を引きあげ給ふより、のたまふやう、「いなや、この落窪の君の^④あなたにのたまふことに従はず、^⑤悪しかなるはなぞ。^⑥親なかんめれば、いかでよろしく思はれにしがなとこそ思は^オめ。かばかり急ぐに、ほかの物を縫ひて、ここの物に手触れざらむや。何の心ぞ。」とて、「夜のうちに縫ひいださずは、子とも見えじ。」とのたまへば、女いらへもせて、つぶつぶと泣きぬ。おとど、^⑦さ言ひかけて帰り給ひぬ。

人の聞くに恥づかしく、恥の限り言はれ、言ひつる名を我と聞かれぬることよと思ふに、ただ今死ぬるものにもがなと、縫ひ物はしばし押しやりて、火の暗き方に向きていみじう泣けば、少将、あはれに理にて、いかにげに恥づかしと思ひ^カらむと、我もうち泣きて、「しばし入りて臥し給へれ。」とて、せめて引き入り給ひて、よろづにいひ慰め^Ｆ給ふ。落窪の君とはこの人の名を言ひ^キけるなり^クけり。わが言ひつること、いかに恥づかしと思ふらむと、いとほし。継母こそあらめ、^⑧中納言さへにくく言ひつるかな。いといみじう思ひたるにこそあめれ、^⑨いかでよくて見せてしがな、と心の内に思ほす。

問一

傍線部ア～クの助動詞の意味を答えよ。

ア「せ

【

イ「なら

【

ウ「べき

【

エ「られ

【

オ「め

【

カ「らむ

【

キ「ける

【

ク「けり

【

問二

二重傍線部A～Fの敬語表現は、誰から誰に向けた敬意か、それぞれ記号で答えよ。

A「いまし

【

【から

【

B「のたまへ

【

【から

【

C「のたまへ

【

【から

【

D「おはす

【

【から

【

E「聞こえ

【

【から

【

F「給ふ

【

【から

【

問三 傍線①「心の愛敬なく見わづらひぬれば」を現代語訳せよ。

「
」

問四 傍線②「いづこなりし几帳にかあらむ」を現代語訳せよ。

「
」

問五 傍線③「果ての言葉聞こえず」とあるが、なぜか。

「
」

問六 傍線④「あなた」とは誰のことを指すか。

「
」

問七 傍線⑤⑥をそれぞれ文法的に説明した次の文章に当てはまる語を答えよ。

⑤「悪しかんなる」は、「
」の形容詞「悪し」の「
」
「形」の「
」
「音便と、

「
」の助動詞「なり」の「
」
「形を組み合わせたものである。

⑥「親なかんめれ」は、名詞である「親」と、「
」の形容詞「なし」の「
」
「形

「
」
「音便と、」
「の助動詞「めり」の」
「形を組み合わせたものである。

問八 傍線⑦「さ」が具体的に示す部分を本文中から探し、はじめと終わりの三字を答えよ。ただし、

句読点は含まないものとする。

はじめ【 】 おわり【 】

問九 傍線⑧「中納言さへにくく言ひつるかな」において、敬語表現が用いられていないことの意図を簡

潔に説明せよ。

【 】

問十 傍線⑨「いかでよくて見せてしがな」に必要な登場人物名を補って現代語訳せよ。

【 】